



第112回日本眼科学会総会 イブニングセミナー3

日時:平成20年4月18日(金) 18:30~19:30
場所:パシフィコ横浜 第4会場 304
横浜市西区みなとみらい1-1-1

黄斑部局所ERGのこれから

座長 愛知淑徳大学 医療福祉学部 視覚科学専攻

教授 三宅 養三先生

黄斑部機能の他覚的評価としての黄斑部局所ERGは、以前は反応のall or noneの評価に止まりERG成分の分析による層別機能評価にまでは到底達していなかった。しかし赤外線テレビジョン眼底カメラによる眼底直視下に記録する局所ERG装置(キャノン)(MERGと略)が我々により開発された1980年代より、ERGの各波成分の分析により、多くの黄斑部疾患で層別機能解析をおこなってきた。一方、1990年代にSutterによるmultifocal ERGが開発され、現在世界中の多くの施設でこの装置が使用されている。特に日本ではその使用台数は飛びぬけている。我々はMERGとmultifocal ERGを長年にわたり比較してきた。いずれも長所、短所はあるが、今後これら黄斑部の局所ERGを用いて測定する方法はどのような診断、研究に役に立つのだろうか。

近年、コーワとメーヨーの共同で黄斑部局所ERG装置が開発された。原理的にはMERG装置と極めて類似した機能を備えているが、LED等を取り入れた新しい側面も備えている。Full-field ERGと同じ基準でERG各波成分(a, b, OP, off, flicker, PhNR)が測定でき、黄斑部の層別機能診断が可能である。黄斑部の形態的情報を示すOCTも現在画期的な発展をとげ、今後はOCTの発展と黄斑部層別機能検査とが連動することが、診断面、研究面で極めて重要である。特にmultifocal ERGでは得られない情報を中心に、本装置の特色を示し、会場の皆様と討論したい。

1. 『網膜外層機能評価としての黄斑部局所ERG』

演者 名古屋大学大学院 医学系研究科
頭頸部・感覚器外科学講座 眼科学

准教授 近藤 峰生先生

2. 『網膜内層機能評価としての黄斑部局所ERG』

演者 岩手医科大学 医学部 眼科学講座

准教授 町田 繁樹先生

第112回日本眼科学会総会
共催  興和株式会社

第112回日本眼科学会総会共催ランチョンセミナー21の情報は裏面へ

